様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：３４３１４
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ１３１５４

研究課題名（和文）中国西蔵自治区に保存されたインド語唯識文献写本探求

研究課題名（英文）Investigating Indic Buddhist Manuscripts of the Yogacara Treatises in Tibet

研究代表者
松田　和信（Matsuda, Kazunobu）

佛教大学・仏教学部・教授

研究者番号：９０２６８１２８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：チベットに保存された唯識文献のインド語写本類の中で、瑜伽論摂決択分の写本は二つに分割され、12葉はロシアのサンクトペテルブルクに保存されている。この12葉のカラー写真を入手して梵文テキストを作成した。チベットに残された部分については、研究期間中にアクセスすることはできなかった。また、ラサで刊行された梵文写本の影印版のうち、約2600葉分の閲覧を行い、その中から、唯識思想を説くラトナーカラシャーンティの作品の梵文テキストと和訳を出版した。さらに未閲覧分の中の約5000葉についても、文献のタイトルと分量を確認した。本研究によってチベットに保存されたインド語仏教写本の全体像の解明に近づいた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
チベットに保存されている膨大な量のインド語仏教写本は、仏教研究にとって非常に重要な意味を持つ研究資料であるが、どれだけの数の写本が残され、いかなる未知の文献が含まれているのか、その詳細は不明のままであった。その一端を本研究によって明らかにすることができ、今後のインド語仏教写本研究に新たな扉を開くことができたと考える。

研究成果の概要（英文）：Among the Indic Buddhist manuscripts of the Yogacara treatises preserved in Tibet, the Sanskrit manuscript of the Viniscayasamgrahani of the Yogacarabhumi was once separated into two parts, the twelve folios are kept in St. Petersburg in Russia and the remaining parts are in Tibet. I have edited Sanskrit text based on the color images of those twelve folios. During the current period of research, it was not possible to access the rest of the folios of this manuscript that remain in Tibet. However, we had a chance to look through about 2,600 manuscript folios in the Facsimile edition of the Sanskrit manuscripts that was published a few years ago in Lhasa and we published a Yogacara treatise by Ratnakarasanti. Furthermore, in regards to about 5,000 folios we could not get hold of, we were able to confirm the titles and quantities of the texts they represent. Through the current research, we were able to grasp the overall picture of the Indic Buddhist manuscripts preserved in Tibet.

研究分野：仏教学

キーワード：仏教学　写本　梵語　チベット

１．　研究開始当初の背景

２００８年10月、北京において西蔵自治区に保存されているサンスクリット語を主とするインド語仏教写本をテーマとする二つの国際会議が連続して開催された。ひとつは中国チベット学研究センターが主催し、もうひとつは北京大学のサンスクリット語写本仏教文献研究所とインド学研究センターが主催した。二つの会議では、ラサで写本の保存修復に携わる研究者を含む中国内外の研究者が研究発表を行ったが、主催者から北京に来るように言われて二つの会議に参加した日本人は研究代表者を入れて3名だけであった。この会議において西蔵自治区のインド語仏教写本に対する中国の研究者と中国国外の研究者とによる共同研究の可能性が示され、それまでは中国側の研究者のみが閲覧可能であった写本目録も紹介された。その後、研究代表者は、中国とウィーンのオーストリア科学アカデミーとの間で始まった共同研究の一員として世親の『倶舎論』に対するスティラマティの註釈書のサンスクリット語写本の解読研究プロジェクトに携わってきた。しかしこれらすでに開始された共同研究は、北京の中国チベット学研究センターに保管されている不鮮明なモノクローム写真に対する研究であり、写本の現物に対する直接的な研究ではない。またこれとは別に、研究代表者は、ロシアのサンクトペテルブルグに保存されている一連のインド語写本群の中から『瑜伽論』「摂決択分」の写本断簡１２葉を発見していたが（『日本西蔵学会会報』34号1998年）、それらはダライラマ十三世よりロシア皇帝ニコライ二世に寄贈されたものであった。北京での会議の後、そこで紹介された写本目録を点検すると、ポタラ宮の経典セクション一級品の第1号の4番として登録されている内容不明写本９８葉が、葉数、葉番号、フォーマット、各セクションのコロフォン等から判断して、ロシアに持ち出された部分に続く「摂決択分」の残りの写本であることが判明した。目録からは、これ以外にも唯識文献写本が数多くラサに保存されていることも明らかとなった。また研究代表者は現在ラサで写本修復に携わるチベット人研究者および北京在住のチベット人研究者との交流も重ねてきた。さらに、西蔵自治区社会科学院の下で2006年に始まった6年間の保存修復プロジェクトが2011年に終了すると、同じ年にその成果として61巻からなるサンスクリット語写本のカラー影印版が4巻の目録を伴ってラサから出版されたとの情報がもたらされたが、61 巻は内部出版とされて、数セットが印刷されただけで、現在に至るまで、研究者あるいは研究機関が購入、閲覧できる情況には至っていない。これらの新情報とこれまでの研究成果、さらに研究代表者と中国側の研究者との信頼関係から判断して、中国側研究者の協力を得て西蔵自治区のインド語写本を直接調査して解読研究することができると判断した。以上が本挑戦的萌芽研究を行うに至った背景である。

２．　研究の目的

中国の西蔵自治区に伝えられたインド語仏教写本類の中から、我が国の仏教学界でも重大な関心を持たれている唯識思想文献写本に的を絞り、その存在が判明している『瑜伽論』「摂決択分」等について、解読研究の可能性を探り、すでに中国国外から入手済みの写本資料については解読研究を行い、写本から回収されるインド語テキスト全体の出版に向けた研究を行う。さらに西蔵自治区に保存されているインド語仏教写本の全体像を探り、今後どのような研究が可能かを明らかにすることが本挑戦的萌芽研究の目的である。

３．　研究の方法

西蔵自治区ラサの西蔵社会科学院貝葉経研究所および北京の中国チベット学研究センターの研究者たちと緊密に連絡を取って、研究代表者（松田和信）と研究分担者（加納和雄）はインド語仏教写本を直接的、間接的に調査し、その中でも唯識思想文献写本に焦点を絞り、特に『瑜伽論』「摂決択分」の写本がどのように保存され、ダライラマ十三世の時代にサンクトペテルブルクに持ち出された同写本に属する１２葉以外に、全体の何葉がラサに現存しているのかを明らかにする。さらにすでに研究代表者が写本写真を入手しているサンクトペテルブルクに持ち出された１２葉、およびラサに保存された写本とは別写本で、現在はラサのチベット博物館に保存されている２葉の貝葉写本断簡および「摂決択分」の注釈書写本の断簡について解読研究を行う。なお既入手写本の解読研究にあたっては漢訳とチベット語訳に基づいて『瑜伽論』「摂決択分」の研究を重ねている独ミュンヘン大学の研究協力者２名と共同で研究を行う。

４．　研究成果

現在、世界各地から多くのインド語仏教写本発見の報告が続いている。例えばアフガニスタンやパキスタンから出土する写本類には紀元一世紀に遡る古写本が含まれ、仏教の源流に迫る重大な資料的価値を持つが、いずれも断簡であって完本の発見は例外的である。それに対して西蔵自治区に保存された写本類は時代的には８世紀を遡ることは希であるが、ほとんどが完本で、インド語テキストの全文を写本から回収することが可能である。またその多くは大乗経典や論典などの大乗文献であり、我が国の学界でもそれらを研究資料とする時代が来ることが待ち望まれていた。このような貴重な資料に対して、本研究の代表者と研究分担者は、３年間の本挑戦的萌芽研究によって、中国側の研究者と交流を深めてアクセス可能な入り口に立つことが出来た。その具体的な成果は以下の通りである。

まず、分割されてロシアのサンクトペテルブルクに保存されている、一連の写本類の中から、『瑜伽論』「摂決択分」を中心とする解読とサンスクリット語テキストの作成を行った（現時点では未刊行）。研究代表者は本研究に先立って写本のモノクローム写真を入手していたが、３年の研究期間中に、ミュンヘン大学の研究協力者の手配によって、精密なカラー写真をサンクトペテルブルクより入手した。ただし、摂決択分写本のラサに残された部分については、その存在は確認されたが、現時点ではなお直接的な閲覧は不可能であり、３年間の本研究ではその詳細を明らかにすることは出来なかった。

次に、数年前にラサで刊行されて、これまでは研究者の閲覧が不可能であったサンスクリット語写本の影印版から、約 2600 葉分の写本写真を閲覧することができた。その中から、唯識思想に基づくラトナーカラシャーンティの般若波羅蜜修習次第のサンスクリット語テキストと和訳研究を出版した。さらに未閲覧分の中の約 5000 葉についても含まれる文献タイトルと分量を影印版に付された目録等から確認した。これによって、影印版 61 巻の内容も含めて、ラサに保存されたサンスクリット語写本の全体像の解明に近づきつつある。これらの研究成果によって、西蔵自治区に伝えられたインド語仏教写本類の今後の研究に道筋をつけることが出来たと確信する。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計５件）
① 松田和信「ラトナーカラシャーンティの般若波羅蜜修習次第」『佛教大学仏教学会紀要』査読有、24 号、2019、21-32 頁。
② 松田和信「トリン寺仏塔より出土した世間施設論の梵文写本」『佛教大学仏教学部論集』査読無、103 号、2019、29-39 頁。
③ 加納和雄、松田和信「ラトナーカラシャーンティの『般若波羅蜜修習次第』梵文和訳」『インド論理学研究』査読無、11 号、2019、145-171 頁。
④ 加納和雄「ヴィブーティチャンドラの詩稿」『印度学仏教学研究』査読有、66-2 号、2018、191-196 頁。
⑤ 加納和雄「Tathagatagarbha sarvasattvanam-涅槃経における複合語解釈に関する試論-」『Critical Review for Buddhist Studies』査読有、22 号、2017、9-61 頁。

〔学会発表〕（計２件）
① 松田和信「Four Buddhist Sanskrit Manuscripts Presented to Nikolai II from the 13th Dalai Lama」Conference Buddhist Studies in Leiden、2017 年 5 月 17 日、ライデン大学（オランダ）
② 松田和信「Compound Abhutaparikalpa in the Bodhisattvapitakasutra」International Workshop on Bhaviveka and Hetuvidya、2017 年 7 月 22 日、浙江大学（中国）

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：加納　和雄
ローマ字氏名：KANO, Kazuo
所属研究機関名：駒澤大学
部局名：仏教学部
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：００５０９５２３

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。